

農泊の推進について

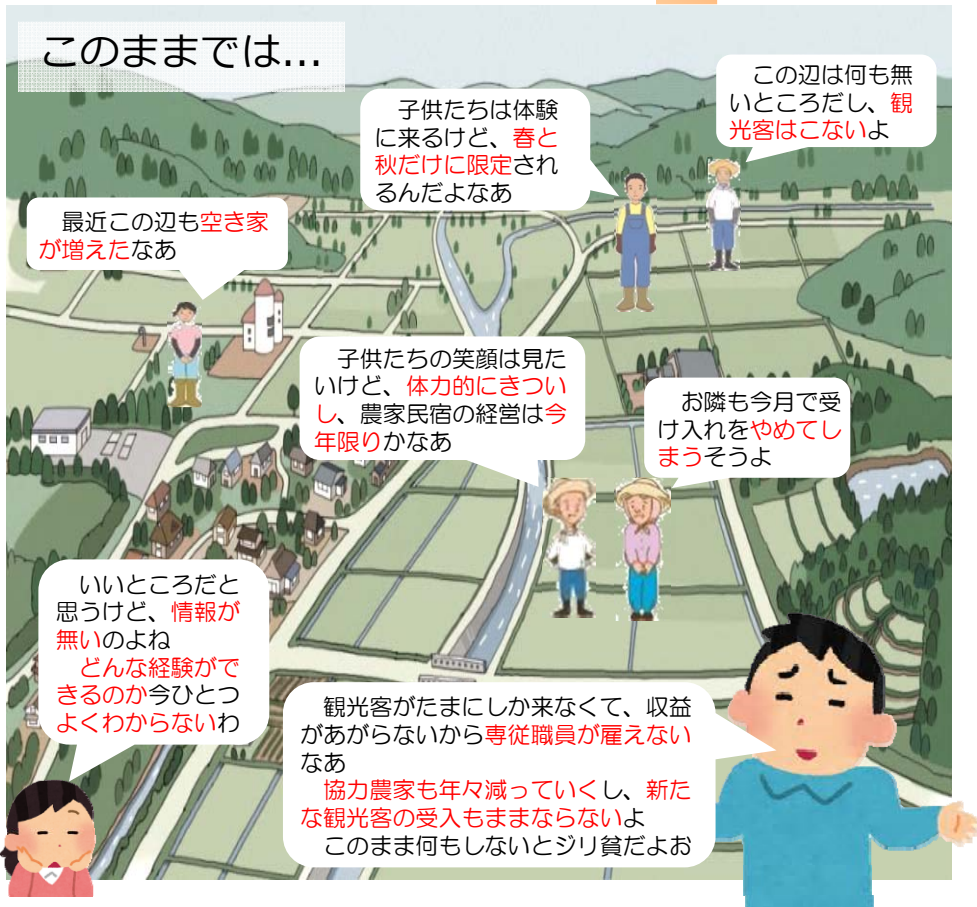
農林水産省農村振興局

■「農泊」の施策的位置づけ及び将来展望（イメージ）

- 農泊は、「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成28年3月30日）において、「**日本ならではの伝統的な生活体験と非農家を含む農村地域の人々との交流を楽しむ「農泊」を推進する**」と位置づけられ、積極的に展開。
- 農泊をビジネスとして実施できる体制を整備するには、農泊を**持続可能な産業**として、**自立的な運営が図られる法人組織が担う体制の構築を支援**した上で、**魅力ある観光コンテンツの磨きあげ**への支援、**プロモーションの強化**を行う必要。

自立的な運営が図られる法人組織等

- ・ 魅力ある観光コンテンツの磨き上げ
- ・ プロモーションの強化

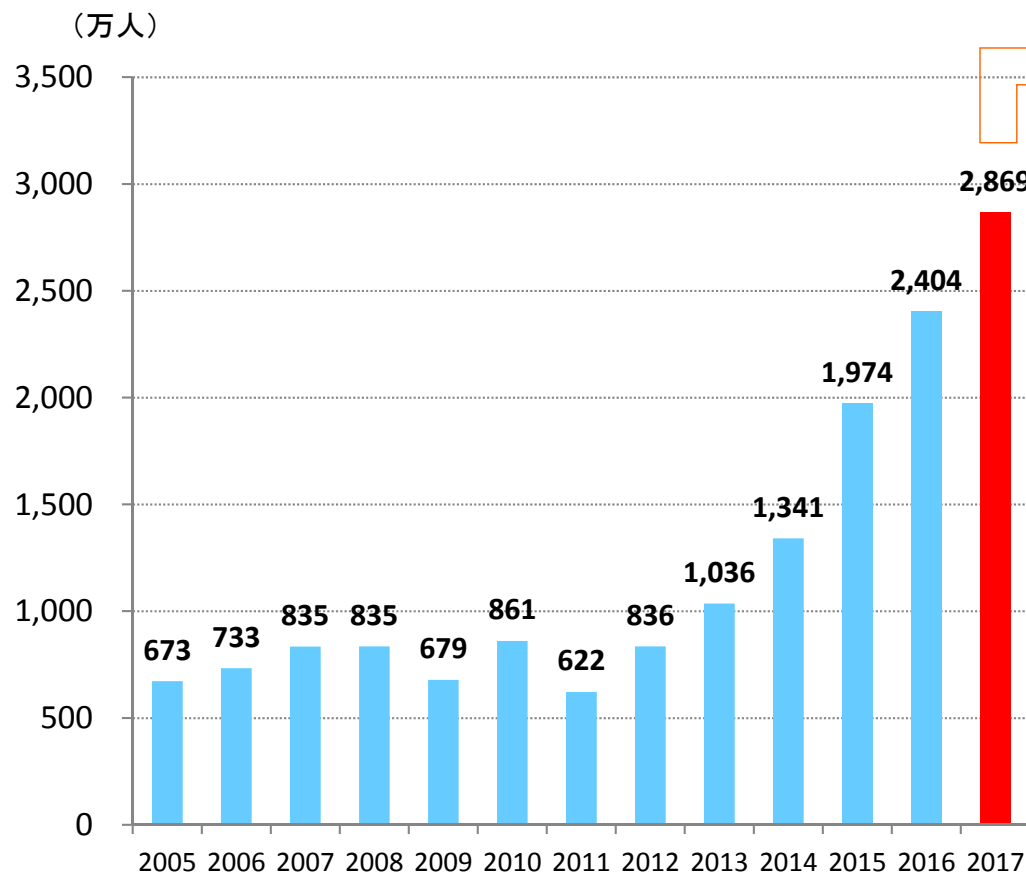


期待される取組の成果



■インバウンドの状況・政府目標

- 平成28年3月30日に「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」（議長：内閣総理大臣）において、新たな観光ビジョン「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定。訪日外国人旅行者数の目標を、2020年に**4,000万人**、2030年に**6,000万人**とした。



資料：日本政府観光局（JNTO）資料をもとに作成

2017年

訪日外国人旅行者数 **2,869万人**

旅行消費額 **約4兆4千億円**

宿泊及び飲食消費額 **約2.1兆円**・・・旅行消費額の48%

農業総産出額9.2兆円（28年）の**23%相当**

資料：平成29年 訪日外国人消費動向調査（観光庁）

政府目標

2020年

訪日外国人旅行者数 **4,000万人**

訪日外国人旅行消費額 **8兆円（3.8兆円）**

2030年

訪日外国人旅行者数 **6,000万人**

訪日外国人旅行消費額 **15兆円（7.2兆円）**

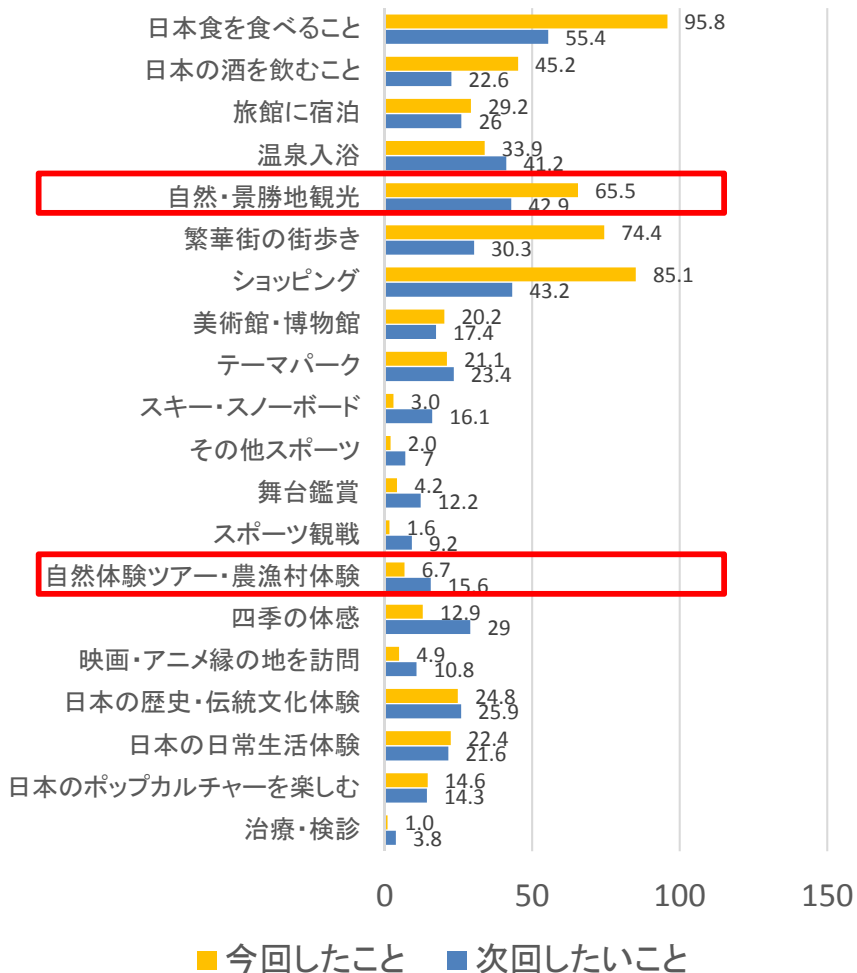
※（ ）は宿泊及び飲食消費額（推計）
平成29年の宿泊及び飲食消費額割合(48%)を乗じて算出

増加するインバウンド需要を取り込むことが重要

■ 農山漁村地域への潜在的旅行需要

- 訪日外国人旅行者のアンケート調査では、今回「自然体験ツアー・農漁村体験」を実施した人が6.7%に留まる一方、次回体験したいと答えた人は15.6%に上る。
- 今後、これら **農山漁村地域への高い潜在旅行ニーズに** 応えていく 必要。

訪日外国人アンケート
今回したこと・次回したいこと



今回の旅行で、「自然・景勝地観光」を行った人は**65.5%**に上るが、「自然体験ツアー・農漁村体験」に参加した人は**6.7%**に留まる

自然・景勝地観光の際、**農山漁村地域に滞在し農山漁村体験に取り込むよう、魅力的なコンテンツ提供及び情報発信が必要**

一方で、次回「自然体験ツアー・農漁村体験」に参加したい人は**15.6%**存在

現在でも、**農山漁村に対する期待は高く、これらのニーズに的確に応える必要**